

神戸電子専門学校 2019年度シラバス

■科目基本情報

科目名	製品企画 I	科目コード	6180
シラバスコード	197C6A-6180		
授業時数/週	3コマ/週		
開講年次・学期	1年次 前期・後期		
必修/選択区分	必修		
担当教員	前田 基之		
教員の実務経験	実務経験のある教員による授業科目		
職業実践専門課程	企業等と連携した実習・演習	連携企業等	カンマグラム
備考			

■科目詳細情報

授業概要	照明器具や家具などインテリア製品のデザイン制作を行う。 基礎的な造形演習を通し、デザイン制作に必要な知識・技術を身につけ、アイデア展開・試作を繰り返し行い実際の製品制作までを行う。
到達目標（前期）	多面体など基礎的な立体造形について学び、立体造形を製品として機能させるために必要な手法を身につける。イメージした立体造形物を実際の照明器具製品として完成させる。
到達目標（後期）	3次元CADや2次元CADを活用した家具製作（ツール）の手法について学び、CADを活用して描いた立体造形を基礎的な家具として機能させるために必要な手法を身につける。イメージした立体造形物を実際の家具製品として完成させる。
授業方法	立体造形演習課題を通し手法を学び、制作課題の中で実際の製品を製作する。
実践的教育の内容	CADを活用した照明器具や家具などインテリア製品の企画デザイン制作に関する基礎的な技術や知識を、試作を繰り返し行い試行錯誤の中で具現化することを演習や実習の中で教授する。
評価方法（前期）	制作課題評価、演習課題毎の成果物完成度評価40% 制作課題の製作図面完成度評価30%、制作課題の製品としての完成度評価40%
評価方法（後期）	制作課題評価、演習課題毎の成果物完成度評価40% 制作課題の製作図面完成度評価30%、制作課題の製品としての完成度評価40%
授業外における学修	市場調査・フィールドワーク・展示会見学・評価会実施など
授業計画（前期）	第1週 造形演習 ハンドワークによる 立方体の製作
	第2週 造形演習 円からなる正八面体の製作とインテリア製品としての機能
	第3週 造形演習 正十二面体の製作と照明器具としての機能
	第4週 造形演習 多面体の研究 多面体の展開図とIllustratorによる作図
	第5週 造形演習 多面体立体造形の製作とレーザー加工の活用
	第6週 制作実習 照明器具として機能する立体物の造形 アイデア展開
	第7週 制作実習 照明器具として機能する立体物の造形 作図・レーザー加工
	第8週 制作実習 照明器具として機能する立体物の造形 組立
	第9週 制作実習 照明器具として機能する立体物の造形改善 アイデア展開
	第10週 制作実習 照明器具として機能する立体物の造形改善 作図・レーザー加工
	第11週 制作実習 照明器具として機能する立体物の造形改善 組立
	第12週 制作実習 照明器具製品の制作 作図・レーザー加工
	第13週 制作実習 照明器具製品の制作 組立・完成
	第14週 制作実習 照明器具 製品撮影 製品パネル作成
	第15週 制作実習 照明器具 製品パネル完成
	第16週 造形演習 ツール模型製作1 ツールの機能とデザイン
	第17週 造形演習 ツール模型製作2 既存製品の調査と機能コンセプトの分析

神戸電子専門学校 2019年度シラバス

授業計画（後期）	第18週	造形演習 ツール模型製作3 CADを活用したツールの設計
	第19週	造形演習 ツール模型製作 レーザー加工による試作模型の制作
	第20週	制作実習 ツール制作 スケッチ及び模型製作によるアイデア展開
	第21週	制作実習 ツール制作 CADによる製作図面作成
	第22週	制作実習 ツール制作 レーザー加工による試作品の加工・組立
	第23週	制作実習 ツール制作 改善1 スケッチ及び模型製作によるアイデア展開
	第24週	制作実習 ツール制作 改善1 CADによる製作図面作成
	第25週	制作実習 ツール制作 改善1 レーザー加工による試作品の加工・組立
	第26週	制作実習 ツール製品制作 CADによる製作図面作成
	第27週	制作実習 ツール製品制作 切削加工データ作成
	第28週	制作実習 ツール製品制作 切削加工データ完成
	第29週	制作実習 ツール製品制作 部材の加工・組立仕様の確認
	第30週	制作実習 ツール製品制作 加工部材の確認表面仕上げ
	第31週	制作実習 ツール製品制作 製品組立
	第32週	制作実習 ツール製品制作 製品撮影 製品パネル作成
	第33週	制作実習 ツール製品制作 製品パネル完成
	第34週	作品評価会 照明器具・ツール作品の評価会実施
教科書・教材	なし	
参考文献・資料	特になし	
履修上の留意点	作品制作では刃物など工具を使用することがあるため、安全に留意して作業をおこなうこと。	